

令和7年1月10日

東北地方整備局 仙台港湾空港技術調査事務所

令和6年度 第2回東北港湾の技術ビジョン検討委員会を開催しました

仙台港湾空港技術調査事務所では、東北港湾を取り巻く情勢や課題の変化を踏まえ、東北港湾ビジョンの実現と地域が抱える技術的問題やニーズへの対応を目指して「東北港湾の技術ビジョン」を策定するため、令和6年度 第2回東北港湾の技術ビジョン検討委員会を12月25日（水）に開催しました。

東北地方の港湾は、東日本大震災からの復興、東北の地方創生、グローバル化の進展への対応など広域的視点からの取組みを支えるため、国内外の海上輸送の結節点という港湾の特性を十分に発揮できるように港湾における技術課題の克服に向けた取組みが求められております。

東北港湾を取り巻く情勢や課題の変化を踏まえ、東北港湾ビジョンの実現と地域が抱える技術的問題やニーズへの対応を目指して「東北港湾の技術ビジョン」を策定するため、令和4年度から東北港湾の技術ビジョン検討委員会を設置し、令和6年度に「東北港湾の技術ビジョン」を策定する予定です。

令和6年度第2回東北港湾の技術ビジョン検討委員会の開催概要は下記のとおりです。

記

1. 日 時：令和6年12月25日（水）13：30～15：30
2. 場 所：国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 AB 会議室
（仙台市青葉区本町 3-3-1 仙台合同庁舎 B 棟 9 階）
3. 議事内容：別紙1のとおり
4. 構 成 員：別紙2のとおり

〔発表記者会〕宮城県政記者会、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会

【問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 仙台港湾空港技術調査事務所

副所長：鬼嶋 充 調査課長：長峰 亮

TEL：022-791-2116（直通） E-Mail：pa.thr-i-gicho@mlit.go.jp

（※●を@に変えてください。）

令和 6 年度 第 2 回東北港湾の技術ビジョン検討委員会

日時：令和 6 年 12 月 25 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分

場所：仙台合同庁舎 B 棟 9 階 港湾空港部 A・B 会議室

議事次第

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 出席者紹介

4. 議 事

（1）技術ビジョン検討の流れと指摘対応、技術項目の個表について

（2）技術の推進に向けて（取組体制・取組時期）

（3）東北港湾の技術ビジョン（冊子案）

（4）今後の予定について

5. 閉 会

令和6年度 第2回東北港湾の技術ビジョン検討委員会 名簿

	氏 名	所 属	職 名	備 考
委員長	小笠原 敏記	岩手大学 理工学部 システム創成工学科	教授	
委員	南 將人	八戸工業高等専門学校 環境都市・建築デザインコース	教授	
委員	泊 尚志	東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科	准教授	
委員	浜岡 秀勝	秋田大学 理工学部 システムデザイン工学科	教授	
委員	砂田 洋志	山形大学 人文社会科学部 経済・マネジメントコース	教授	
委員	岩城 一郎	日本大学 工学部 土木工学科	教授	
(行政)				
委員	奥田 隆	東北地方整備局 港湾空港部	港湾空港企画官	
委員	大亀 寛	東北地方整備局 港湾空港部	計画企画官	
委員	佐々木 均	東北地方整備局 港湾空港部	事業計画官	
委員	福田 良介	東北地方整備局 港湾空港部	技術企画官	
委員	齋藤 靖	東北地方整備局 港湾空港部	海洋環境・技術課長	
委員	日向 幸紀	仙台港湾空港技術調査事務所	所長	

(順不同、敬称略)

議事概要

令和6年度第2回東北港湾の技術ビジョン検討委員会

日時：令和6年12月25日（水）13:30～15:30

場所：仙台合同庁舎B棟9階 港湾空港部 AB 会議室

【議事概要】

- ・ 前回、令和6年度第1回東北港湾の技術ビジョン検討委員会での指摘事項に対する資料修正及び技術項目個表について説明し、意見交換を行った。
- ・ 技術ビジョンの推進に向けて、取組体制、取組時期について説明し、意見交換を行った。
- ・ 東北港湾ビジョン（冊子）について説明し、意見交換を行った。

＜議 事＞

- （1）技術ビジョン検討の流れと指摘対応、技術項目の個表について
- （2）技術の推進に向けて（取組体制・取組時期）
- （3）東北港湾の技術ビジョン（冊子案）

【委員からの主な意見】

- ・ 理念の文章とイメージ図が対応するよう調整すること。特に、イメージ図の「東北地域の発展」を文章に反映させたほうが良い。
 - ・ 技術項目9. メンテナンス・予防保全技術にあるエポキシ樹脂鉄筋やCFRP材料は、予防保全や補修というよりも、高耐久材料として最初から入れることで構造物を長寿命化し、環境保全に貢献するという考えの方が合致する。技術項目3. 環境保全関連技術の具体的取組テーマの「リサイクル材」を「リサイクル材・高耐久材料」とし、技術項目9. から技術項目3. に移動してはどうか。
 - ・ 技術項目13. 静穏度確保・暴風対策技術について、背景に厳しい気象条件下とあるが、具体的取組テーマとのつながりが分かりづらいため、文章を工夫すること。
 - ・ 全体を通して、背景が同じ文章となっている項目があるが、それぞれ別の背景があると思われるため、文章を工夫すること。
 - ・ 実効性を持たすため、途中段階でチェック、レビューは重要で、そのことを明記する必要があるのでは。
 - ・ チェック体制については、技術ビジョン自体と並行して検討すべき大きな課題で、達成感を客観的にどう評価するかも検討が必要。難しい内容であるが、チェックを行うという意識付けは必要。
 - ・ チェック方法は、チェックすることと方法を検討する旨、明記して頂ければと思う。
- ⇒委員からのご意見を受け、事務局において資料の修正作業を行い、委員への最終確認を経て、令和7年2月頃に東北港湾の技術ビジョンを公表する予定です。

以上